

東京大学企業研修レポート

私はこの研修で多くの人と話すことができ、様々な事を学んだ。研修中に起きた出来事や研修の時間そのものが自分にとってとても新鮮であり勉強になったと思う。また、数少ない学校の宿泊行事で貴重な体験をすることができ自分のためになったと思う。

初めに、その体験の内、ディレクトフォースについて話す。私が所属していた班は新日鐵住金さんにお世話になった。本社のビルはとても高く、ビルの中は清潔で広かった。大手企業の本社には社員でも

めったに入れないと先生が話していたので大変緊張していた。そこでは社員の方々、二高OBの方々にお世話になった。最初に会社概要、その次に仕事の面白さや仕事において重要なことを教わった。その後、社員の方々、二高OBの方々と共にいくつかの班に分かれて「社会人になって役に立つ学生時代の経験」について話し合った。そこでは、「計画を立てて物事を進める」や、「積極的にコミュニケーションをとる」など様々な意見が出た。そのなかでも人との関わりについて大きく取り上げられた。クラスでの話し合いをしているときなどで自分とは反対の意見を持っている人との関わりについて最も多く話された。そして私たちは「自分と反対の意見を持っている人の話を聞き、それを受け入れることはより良い意見を生み出すことになるための大切なことである」という結論に至った。そこには自分と同じ意見の人とばかり一緒にいて、反対意見の人との関わりを持たない事が自分たちの意見の欠点を見出すことの出来なくなる原因の一つであるからという根拠があり、私はそこに深く納得できた。いままではそこまで意識していなかったことが、今回のディレクトフォースによって気づかされた。

次に企業訪問について話す。私たちの班は協和発酵キリン株式会社 東京リサーチパークの皆様にお世話になった。そこは、最先端のバイオテクノロジーを駆使した抗体技術で新薬を開発している研究開発型企業である。そこへ初めて訪れたときは清潔感があり、緑が豊かな印象を受けました。建物はサポート棟と研究棟の二つに分かれており、その中でも私たちは研究棟の見学をさせていただいた。研究棟への通路には図書スペースがあった。そこには普通の学校の図書館と同じ位の数の本があるが、最近では電子書籍が多く利用されているのだそうだ。研究棟へ入ると、通路の左側に研究室があり、右側にはデスクワーク用の部屋があった。自分は研究者の方々は研究室でひたすら製薬の研究をするものだと思っていたため、研究者の方々も普通の会社員のようにデスクワークをするという話を聞いたときは驚いた。また、階段の吹き抜けになっている場所にはテーブルとベンチが、通路にはホワイトボードが設置されており、研究員同士のコミュニケーションを図る場として使われている。他にもこのようなコミュニケーションを重視するような場所があった。それはデスクワークスペースの仕切りである。しかし、デスクワークをする際には個々の空間が必要である。そこから、座ると一人の空間に、立てば他の人の姿が見えるようなコミュニケーションのとりやすさと仕事への集中のしやすさの両立を図った絶妙な高さの仕切りを設置していた。このような話を聞く前は研究員の方々は一人の時間だけが大切だと思っていたため、この話を聞いてコミュニケーションをとることはとても大切なことなんだと思った。他にもテニスコートやフットサルコート、中庭など気分転換できるような施設が充実していた。特にテニスコートでは毎年テニス教室を、また近くの小・中学校では理科教室を開いていて、研究所周辺の住民や地域の人々との交流を図っているという。このことから、仕事をするにあたって地域の人々との信頼関係を築く事の大切さを学んだ。さらに、質疑応答の時間ではより多くの衝撃を受けた。まず一つ目に「薬を開発するのに何人くらいの人に関わっていますか」という質問に対し、「百人程度は必ず関わっている」と話された。そこには、開発する研究員の人々と、開発した薬を投与して試験する人がいる。また、その人数で一つの薬を作るのに数十年かかるため人生で大きな功績を残せる人は少ないという。私は研究員の仕事がこんなにも苦勞するものとは思わなかった。しかし、研究員の方々はこのような苦勞のいる仕事に楽しさを見出だしているという。たしかに、簡単に出来るような楽な仕事には生き甲斐のようなものを見つけることができないと私も思う。自分の開発した薬が日本中、世界中に広まり世の中の

人々が健康になれると想像すると、今までの苦労は消えてしまうと思うので研究員の仕事は大変やりがいがあると思う。他には「薬の名称はどのように決めているのですか」という質問に対し、「だいたい語呂合わせで決めている」と衝撃的な答えを話していた。例えば、協和発酵キリンさんが開発した「アレロック」という薬は「アレルギー」の症状を抑える、つまり「ロック」するという薬のため、このような名前がつけられているという。病院から処方される薬には少ないが、市販されている薬はこのような名前が多い。これは使用者にもどのような症状に効く薬か分かるようにしているからだ。使用者の事を常に考え、努力している研究員の方々、その研究員の方々に支えているサポート棟の方々はとても素晴らしい人たちだと思った。自分は将来、どのような職業に就くのか分からないが協和発酵キリンさんのような人のためになれるような仕事に就きたい。

次に二高 OB・OG の方々との懇談会について話す。そこでは有名大学へ通っている二高 OB・OG の方々に大学入試についての心構えや、学生時代に積んでおいた方がよい経験などを教えて頂いた。そのなかでも大学院生の方々が比較的多く、中には世界一周の旅へ行ってきた方や、会社の社長を務めている方までいたためとても驚いた。OB・OG の方々が勉強している内容は十分には理解が出来なかったがその分、高校時代に必要な経験や大学入試については深く知ることが出来た。この懇談会で私は自分の将来や現在の自分に必要なものについても一度深く考える事ができた。

次に東京大学オープンキャンパスについて話す。私は理学部へ訪れた。そこには有機物の太陽光パネルや光る細胞などの研究をする様々な研究室があった。さらには研究内容もとても難しく、現在の自分は内容を理解するだけで大変だった。このような研究をするには並大抵の努力ではできないと思った。また、キャンパスを歩いていると学生の人々だけでなく一般の人々まで散歩をしている所を見かけた。これはやはりキャンパス内の緑が豊かだからであると思う。キャンパス内の緑が豊かであるのは東京大学の魅力の一つであると思う。さらに歩いていると外国人留学生の姿が見えた。東京大学では国際交流も盛んであり、様々な文化、異なったバックグラウンドを持つ学生の方々が集まってコミュニケーションをとっているという。このオープンキャンパスを通して普段テレビや新聞などでしか見れない雲の上のような存在であった東京大学についてよく知る事ができ、自分の目指したい学部についても視野が広がったと思う。

最後に、今回の東京大学企業研修は大変有意義な時間だったと思う。今まではここまで将来に関して考えるような事はしなかったため自分の将来のため今自分ができることやその将来について深く考えるきっかけになった。これからは高校生活を楽しむと共に自分の将来のために少しずつ学生時代にしか出来ない様々な経験を積んでいきたいと思う。